

AKAPTOT NEWS

Vol.76・2025.12

TOPICS

第 26 回 学術集会のご案内！

ご注意下さい！資格更新再開！

▶▶▶Headline

▶令和 7 年度第 2 回理事会報告

▶認定委員会からのお知らせ

▶第 13 回応用コース開催報告

▶動画コンテンツのお知らせ

▶リレーコラム（第 35 回）

会員の皆様、周囲の方々も LINE のご登録を！



akaptot.com



日本関節運動学的アプローチ医学会 理学・作業療法士会

Japanese medical society of Arthrokinematic approach
for Physical・Occupational Therapist



§ AKAPTOT 会年間スケジュール表（2025 年度）・全国規模コース開催予定表

詳細情報はこちらから→[年間スケジュール表（2025 年度）AKAPTOT 会](#)

(概要が決定している研修は HP 上で項目をクリックしていただくと詳細が表示されます)

§ 令和 6 年度第 2 回理事会報告

- 今後の当会研修会等事業の申込方法を当会ウェブサイト上での申込みに統一する
- 当会関連（医師）団体の日本 AKA 医学会の主催する研修会等事業の受講証等は研修会での提出は不要で、当会会員各自で管理を行う
(会員各自の資格更新・受験等の必要に応じ提出 以下「§ 認定委員会より」項を参照)

§ 第 26 回学術集会のご案内

第 26 回 学術集会 会長 坂本 周介
準備委員長 杉尾 秀一

拝啓 師走の候、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
この度、第 26 回学術集会を 2026 年 7 月 20 日（月・祝）に福岡市にて開催する運びとなりました。

今回の学術集会では、改めて AKA-博田法の持つ価値と可能性に目を向け、その臨床的意義を再確認することを目的に、テーマを「AKA-博田法～可能性の再発見～」といたしました。
本学術集会が治療に対する新たな視点と臨床的意義を再確認する場となり、多くの学びと交流の機会となりますことを願っております。

演題の応募を含め、多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

敬具

● 学術集会開催要項

テーマ : 「AKA-博田法～可能性の再発見～」

日時 : 2026 年 7 月 20 日（月・祝 海の日）9：45～16：00

会場 : 福岡国際会議場 国際会議室 501 福岡市博多区石城町 2-1
<https://www.marinemesse.or.jp/congress/>

形式 : 対面 ライブ配信 オンデマンド配信

対象 : 理学療法士・作業療法士・医師・学生（PT 学科・OT 学科）

参加費 : 日本 AKA 医学会理学・作業療法士会 会員 7,000 円

日本 AKA 医学会 会員 7,000 円

非会員 9,000 円

学生 2,000 円

尚、医療類似行為の専門職として就労活動している方は参加できません。

プログラム：① 教育講演Ⅰ：西薗 博章 先生
② 教育講演Ⅱ：伊藤 浩一 先生
③ 基調講演：井端 康人 先生
④ 特別企画：博田節夫先生映像アーカイブ
⑤ ショートセミナー：農端 芳之 先生・前田 智秀 先生・甲斐田 麻由子 先生
⑥ 一般演題

- 懇親会：2026年7月19日（日）18:00～20:00
会場：[焼鳥と焼肉 ねぎ肝屋【公式】](#)
対象者：日本AKA医学会理学・作業療法士会会員で事前にお申し込みいただいた方
懇親会費：5000円

- 学術集会事前申し込み方法と申し込み期間

申込期間：令和8年4月1日～6月30日

申し込みは、当会のホームページより行います。

次号ニュース（4月または5月発行予定）およびホームページをご確認ください。

当会ホームページ学術集会案内 <https://akaptot.com/academic/3521.html>

◆ お問い合わせ先 <学術集会 事務局>

可也病院 佐藤 香奈子 E-mail akafukuoka1200@gmail.com

- 第26回学術集会一般演題募集要項

I. 応募資格

演者が日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会会員であること。

II. 応募方法

E-mail（パソコンのみ）にて

件名を「第26回学術集会 AKA一般演題申込」とし、

①演者氏名 ②所属・職種 ③連絡先（電話番号・PCメールアドレス）④発表内容を記載した資料を添付して、下記のE-mailアドレスに送信してください。詳細確認後、演題発表用資料を返信いたします。

演題登録 期限 令和8年1月末日

III. 演題応募、お問い合わせ先

問い合わせのE-mailは、件名「AKA演題について」と明記してください。

日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会
第26回学術集会(福岡) 学術局
可也病院 リハビリテーション科 梶原 隆男
E-mail:kimforts@gb4.so-net.ne.jp
TEL: 092-327-0131

§ 認定委員会より

＜資格更新再開について＞

昨年度よりお知らせしていましたとおり、令和7年度より資格更新手続きを再開いたします。手続きの受付開始は令和8年1月を予定しています。

準備が整い次第、会メールおよびLINE公式アカウントでお知らせいたしますので、資格者の皆様は必ず登録をしていただきますよう、お願ひいたします。

以下に今回の更新に関する注意事項を記載しておりますのでご確認ください。

① 更新対象者について

本年度（令和7年度）の更新対象者は、資格有効期限が令和3年3月31日の方となります。

② 更新要領の改定について

今年度総会において、更新要領の改定が決議されました。

旧要領では指導者助手は指導単位が必須でしたが、今回の改定により応用コースなどの受講単位も更新に使用可能となりました。

新しい更新要領を、本ニュース内および当会ホームページ「認定関係→資格更新要領」に掲載しておりますので、ご確認ください。

詳細情報はこちらから [資格更新実施要領 | AKAPTOT会](#)

③ 特例措置のリセットについて

特例措置により延長されていた方については、今回の自動延長が5年間と長期間であったため、本年度より延長期間がリセットされ、資格期間のカウントが開始されます。

令和7年度で認定期間1年が経過した扱いとなりますので、今後も延長が必要な場合は改めて特例申請の提出が必要となります。

申請書式：当会ホームページ「認定関係→書式ダウンロード→更新延長願い」

提出先：aka-fukuoka@onyx.dti.ne.jp 認定委員会

④ 自動延長期間中の単位について

令和2年4月1日～令和6年3月31日の自動延長期間中に研修会・学会等に参加し、取得した単位は、更新単位として使用可能です。

⑤ AKA 医学会単位について

AKA医学会主催の研修会単位は、原則として会の名簿には自動的に登録されません。

以前から申請で記載された単位が確認できない事例が多くありましたので今回の更新より、医学会の単位を使用する場合は、申請時に「参加証の写し（画像またはPDF）」の添付が必要となります。提出がない場合は単位は使用できませんので他の単位を使用していただくようお願いいたします。

⑥ 申込方法について

今年度より、更新申請はオンラインでの書類提出となります。

申込方法および必要書類は、会ホームページに掲載し、ダウンロード可能といたします。

（令和8年1月予定）

§ 第 13 回応用コース開催報告

11月23日・24日、福岡県糸島市の可也病院にて令和7年度の応用コースが開催されました。6年ぶりの2日間での開催でしたが、関東から九州まで、18名(認定療法士6名・指導者助手12名)の先生方が参加してくださいました。

今回は「ポジショニングの意義」をテーマに、ポジショニングに関する講義と、実技では下肢・体幹のポジショニング→上肢のポジショニング→密着・操作と、時間を区切りながらじっくりと指導していただきました。受講生は講師の先生方に質問したり、お互いにフィードバックしたりしながら、正しいポジショニングによる感覚を実感出来るよう熱心に取り組んでいました。非常に充実した2日間となりました。

来年度も是非、多くの方に参加していただけたらと思います。

九州・沖縄ブロック 第13回応用コース準備担当
宮原和美

§ AKA 動画コンテンツのお知らせ

動画配信担当 赤木 智(近畿ブロック)

現在、会員の皆様の学びの機会をご提供できるよう学術集会や技術のデモ動画をYouTubeで限定配信しております。動画では伝わりにくい部分もありますが新入会員の皆様のAKA-博田法に関する新たな学習としては勿論、ある程度AKA-博田法を学んできた会員の皆様にも復習の場として学習できる内容となっておりますので是非ご利用下さい。

以下視聴方法を案内します。

1. 日本AKA医学会理学・作業療法士会ホームページにアクセス (<https://akaptot.com/>)
2. 会員専用ページにログイン
3. 会員専用コンテンツ「動画視聴(会誌閲覧)」をクリック
もしくはその他の項目の「学術集会動画配信」「技術デモ動画配信」をクリック
4. 「演題名」「技術名」をクリックすると動画が視聴できます。

§ リレーコラム（第 35 回）

「富士山と AKA」

関東甲信越ブロック 樂天堂整形外科
指導者助手 中島弘幸

富士山の麓の整形外科で働いている理学療法士の中島弘幸と申します。AKA-H 歴は 22 年目となります。加村先生からのお願いによりコラムを引き受けさせて頂きました。

さて引き受けたものの何を書いたものやらと悩みます。歴代の先生による AKA-H の上達法、出会い、AI 関連のものもあり、すでに書き尽くされた感があります。また、紙面ではなくデジタル書面ということにて何気なく目を通せる紙媒体とは異なりどれほどの会員さんたちの目に留まるのかどきどきしつつ進めていきたいと思います。

理学療法学科の学生の頃、理学療法学はあるのかと尋ねられたことを覚えていました。クラスの反応は微妙なものでした。夜間の専門学校（日本橋の近辺です）なので自分も含め二十代後半の生徒が多く現役からの学生は二三人だったように覚えています。考えも固まりつつある世代のなかで自身が学ぶ専門領域についての有無を問われ返答できないという不思議な状況。今ではイエスと言えますが当時はずっと理学療法とはなんぞやと思っていました。

理学療法的考察、学生ですから言われるがまま素直な学生を演じてはいますが内心はすつきりしません。今のように有益な情報に簡単にアクセスできるわけでもなく授業を淡々と受け日々悶々としていました。当時、パワーリハビリなんて言葉が台頭していたような気がします。筋トレと理学療法。確かに筋トレは理学療法士の武器の一つであり重要な気がします。筋力がないから筋トレという図式に漠然と違和感を覚えていました。それでも経験を積んでいけば見えてくるものもあるのだろうと考えていました。そんな時分、外部講師の先生の講義にこれはというものを感じさせてくれるものが幾つかありました。そのひとつが AKA-H（当時は AKA のみの表記）がありました。クラスメイトもその場では感嘆していましたがそれっきりですね。外部講師の先生はその徒手療法の名前も言わなかったような気がします。あとからクラスメイトが AKA という手技だと教えてくれました。就職活動も終え行く先が決まっていたのですが就職案内を見、そこに AKA の文字を発見、就職先にはお詫びを入れ山梨にやってきました。

当時、理学療法士の転職が厳しくなってきているという話が徐々に持ちあがっていました。就職するには相応の覚悟がいるということだったような気がします。今年度の理学療法士協会の会長のお話ではまだまだ理学療法士の数は足りないとお話しであったと思いますが。それでも振り返ってみれば転職しているクラスメイトも多く、今では珍しくありませんが当時、卒後クリニックに就職するものは少なかったような状況の中で 20 年以上勤務している今現在、各方面への不義理も許されるのではないかと思っています。内心では一年ぐらいで AKA を身につけることができるだろうと甘い考えのもと再び東京へ戻ろうと考えていました。現実に向き合ってみると AKA-H は今でも教えられることが多く学ぶことも沢山、まだまだ修行中です。

また、当院では数年に亘り AKA の地域研修会の開催を行うことができ博田節夫先生の診察を見学する機会に恵まれました。かなり贅沢な環境です。これもひとえに当法人の理事長、小俣昌大先生のおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。博田先生にも直接、上達の方法を伺ったことがあります。博田先生は新米の理学療法士の質問にもきちんと答えてくれます。

「君は足首が固いんだね。山を走ったことがないんだね」と言われました。博田先生は覚えていないでしょう。単純な私はそれから山を走り始めました。なにしろ私の住まいはあるの富士山の麓、休日には五合目まで走っていました（今よりもう少し若かったので）。雨の日、雪の日も走らない理由はありません。トレイルランニングの装備も充実して来た頃です。「激走モンブラン」に感激した世代といって良いのでしょうか。FUJI100（旧UTMF）が開催されるので鎌木毅氏の雄姿を見学しています。

しかし、私のAKA-Hの技術は上達しているような後退しているような一進一退を繰り返しています。それでもAKA-Hの楽しさはいつまでたっても同じです。私の足関節も相変わらず硬さを保ち続けているようです（走り方の問題か？）。富士ヒルクライム（ロードバイク）、富士登山競争（万年、五合目）、富士山マラソンは私の定番となりつつあります。これも博田先生の言葉がなければと思いますが目的があきらかに変わってきましたね。エンタリーが難しいものもありますが興味ある方は奮ってご参加を。そして思うにランニングは一人でも問題ないとは思いますが結果を求められる職業にあってAKA-Hの共通認識を持った仲間が近くにいることはとても心強いです（結果を求めるランではやはり仲間は大切だと思いますが）。一人ではこんなにも長くAKAを続けられたか疑わしく仲間でもありライバルがいるからこそ今の自分がいるのだと思います。

理学療法の話に戻ります。整形外科に所属していると最近のエポックメイキングとしては超音波エコーの出現でしょうか？以前の博田先生の話では医師がきちんと患者を評価しないという話を幾度となくされていました。まだまだ一部の先生たちなのかもしれませんですが、副運動の評価はともかくMMT、末梢神経障害等を詳細に調べる先生（医師）たちがいらっしゃいます。そこで関節包内運動の大切さを語られていることが多いような気がしないでもありません。しかしながらこの包内運動へのアプローチは包外からのアプローチにより包内運動を改善あるいは調整させることを目的にしていることのように思います。AKA-Hの副運動による包内運動のアプローチの重要性がもっと多くの理学・作業療法士の先生方の共通認識として広まってくれると臨床への理解がさらに進むのではないかと考えています。

以上、長々と私のとりとめのないお話を付き合って頂きありがとうございました。研修会や学会にて皆様方とお会いできるのを楽しみしております。



(クリニックから富士を望む)



(吉田の火祭り 大大松 当法人奉納)

§ 都道府県別会員数 (令和7年12月8日現在)

北海道	5	東京都	35	京都府	17	高知県	9
青森県	1	神奈川県	97	滋賀県	8	香川県	9
秋田県	4	新潟県	1	奈良県	12	愛媛県	7
岩手県	4	富山県	1	和歌山県	7	福岡県	47
宮城県	3	石川県	0	大阪府	86	長崎県	23
山形県	13	福井県	2	兵庫県	25	熊本県	12
福島県	1	山梨県	158	岡山県	6	大分県	6
茨城県	1	長野県	4	広島県	7	佐賀県	0
栃木県	22	静岡県	13	島根県	5	宮崎県	2
群馬県	9	岐阜県	2	鳥取県	9	鹿児島県	5
埼玉県	21	愛知県	15	山口県	30	沖縄県	10
千葉県	40	三重県	1	徳島県	14	総数	809

§ 日本 AKA 医学会理学・作業療法士会

事務局 E-mail : aka-pt@dream.ocn.ne.jp (お問合せは E-Mail でお願い致します)

(編集後記)

今年も残すところあと数週間となりました。皆様今年はどのような一年でしたでしょうか。とにかく今年は暑かったという印象です。近年は四季がなくなり、ほぼ二季となった感があります。

今年は当会執行部としては事業の大きな変革の年となりました。まず、昨年秋に理事長直轄の委員会組織検討会議が立ち上げられ、各委員会の問題点・役割の整理、改善について検討し、各部署で事業を見直し動いて参りました。具体的にはウェブサイトの変更・情報集約、研修会企画の流れ等の整理・改善、会誌・ニュースの電子化、メール配信システムの利用、公式LINEアカウントの立ち上げ・配信、PTOTSTネット等への情報掲載…等々が開始されております。出来る限り世上に合わせつつ進めていかなければと考えております。皆様も一人でも仲間が増えるよう、周囲の方々にお声掛け、ご紹介下さい。そして学術集会や研修会にもお誘いあわせの上ご参加下さい。AKA-博田法そしてANT技術・離床応用はさらに解明され、指導法もブラッシュアップ・明瞭化されております。是非、ご参加されて体感して頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

2025年1月(予定)より資格更新手続きが開始されます!過去にせっかく努力して認定資格を取得されたものです。ぐれぐれも失効されないようにご注意下さい!!

今回のリレーコラムは山梨県の中島先生が担当して下さいました。博田先生のお言葉を忠実に守られて今があるのですね(笑)しかし、編集者にとって富士山は飛行機の上から、もしくは東京近辺からみるものとなっていますが、診療しながら雄大な富士山が目の前に広がるという環境が素晴らしいとお写真を拝見して感じました。

離れてはいても大切な仲間の会員の皆様、良いお年をお迎え下さい。また来年の福岡学術集会などで直接お会いできるのを楽しみにしています!(是非、編集者へお声掛け下さい!)